日光街道400年の「むかし」と「いま」を同時に歩こう

徳川家康が日光東照宮に改葬された元和3（1617）年に街道・宿場がともに整備されたという日光街道。この日光街道は宇都宮までは奥州街道とも重なり、参勤交代をする奥州各藩の大名行列、また一般の旅人も行き来した道で、宇都宮からは4つの宿場を経て日光に到着します。元禄の昔、芭蕉が奥の細道の旅路の一部として辿った日光街道のうち、栃木の宿場を自らの足で歩いて、昔の面影を偲びつつ、現在の姿もまた見つめ直してみませんか。

地図は日光街道沿線の各自治体所有の1万分の1白図を使用し、近世の日光街道を赤色（道は赤の実線。ただし通行不能区間及び比定があいまいな箇所は破線）で表しました。

御徒マップについて

日光街道には江戸千住を最初の宿場として日光の鉢石宿まで21の宿場があり、そのうち宇都宮までの17宿は奥州街道と重なっていました。このマップでは、この21宿のうち栃木県内の野木宿から鉢石宿までの12宿を中心に6冊に分けて編集します。これらの宿場の周辺には旅人の宿として繁盛した当時の名残りをとどめる様々な名所・史跡が残っています。また、今に至るまで行われている行事もあります。さらに道中の自然や見どころも広く紹介してあります。このマップを活用して、歩きながら、日光街道の"むかし"と"いま"をお楽しみください。

地図の凡例

- 旧日光街道
- 一般国道
- 主要地方道
- 一般県道
- 有料道路
- 名所・史跡
- トイレ
- 公園
- 駐車場
- 並木道
- その他のポイント
- 案内看板等
- 観光案内所
- 官公庁

「版本 日光道中絵図 雀の宮」（栃木県立博物館蔵）

藤原実方、綾女の伝説が語り継がれる
雀宮宿

田川と姿川の間の台地上に位置する雀宮は、宇都宮市の入り口にあたる町です。江戸時代はじめ、下横田村の枝郷（分村）でしたが、土地が高いことから台横田村とも称し、のちに雀宮神社の名を取って雀宮村となりました。

雀宮宿は、元和年間（1615～24）に日光街道が開かれたときに新しくつくられた宿場だといわれています。慶安元（1648）年には、本陣と脇本陣が各1軒、旅籠が38軒ありました。本陣職を務めていた小倉家は、もともと宇都宮氏の家臣として2万石を領したといわれる旧家で、慶長2（1597）年に宇都宮氏が没落してからは同地に土着し、代々名主を務めたといいます。

明治中頃までは街道沿いに芝居小屋などが立ち並び、賑やかな町だったようですが、今はその面影はありません。

うつのみや遺跡の広場

行ってみよう! 見どころいろいろ

今から約5500年前の縄文時代前期の大集落跡です。現在は「うつのみや遺跡の広場」として復元整備されていて、国指定の文化財になっています。また、この広場はニッコウキスゲの群生地としても有名です。JR宇都宮駅より関東バス「運転免許センター経由楡木行き」路線バス約30分、「聖山公園入口」下車。

とちの木ファミリーランド

行ってみよう! 見どころいろいろ

栃木県総合運動公園内にあり、入園無料。各種の乗り物も格安です。近くには塚山古墳群もあり、家族で一日中楽しめます。東武宇都宮線「西川田」駅下車、徒歩10分。

雀宮神社の伝説

歴史の小道

宿場の名ともなった雀宮神社ですが、その由来には多くの伝説が残っています。社伝では、長徳元（995）年、陸奥守に任ぜられた藤原実方が赴任の途中でここで休息し陸奥に向かいました。妻の綾女も、その実方を追いますが、この地に来たところで病死してしまいます。その遺言で持っていた宝珠を埋め、産土神としてまつったのが神社の始まりです。その後、実方も赴任地の陸奥で死にますが、その霊魂が雀となりこの地に飛来したので、綾女と実方の2人を合祀し雀宮神社と称したということです。

ほかにも、雀が村人を救ったという伝説や、下野薬師寺に流された道鏡が納涼のためにつくった亭を「すゞみの宮」としたのが転化したという説など、多くの話が伝わっています。

❶ 雀宮神社

古くは雀宮明神といい、多くの言い伝えが残っている神社です。藤原実方とその妻・綾女がまつられ、徳川将軍の日光社参ではこの神社に参詣するのが例になっていたと伝えられます。

❷ 仮本陣跡

雀宮駅入口交差点にある芦谷家は、江戸時代、仮本陣でした。その門構えと黒い板塀に、往時の面影が残っています。

❸ 雀宮本陣跡

仮本陣の芦谷家の近くに本陣・小倉家がありました。その敷地は間口15間（約27m）、奥行き15間あり、建坪は115坪余（約380m²）あったといわれます。現在、跡地には標柱が建てられています。

下野の両雄対決

歴史の小道

茂原（古くは毛原、裳原とも書いた）は中世、たびたび合戦場となったところです。南北朝のころ、天授6（康暦2、1380）年、茂原の地で下野の両雄といわれる宇都宮基綱と小山義政が壮絶な戦いを行いました。「小山・宇都宮合戦」とも「裳原合戦」ともいわれる戦いです。結局、義政の謀略によって基綱ら一族300余人はことごとく討ち死にしてしまいました。この合戦は本来、宇都宮氏と小山氏の私闘でしたが、のちに鎌倉府に対する小山氏の反乱にも発展したといわれます。

街道名物 ぬくもりが伝わる 宇都宮のお土産

栃木県はかんぴょうの生産日本一。その実をくりぬいて作る「ふくべ細工」は、宇都宮の代表的なお土産です。ほかにも、無病息災を願う郷土玩具「黄ぶな」や「大谷石細工」など、その可愛らしい表情には、思わず心もなごんでしまいます。

❹ 観音道の入り口

観音道は「茂原正観音道」と書かれたこの地点から始まり、多くの参詣者が通った道でした。日光街道から茂原観音までの観音道を行くと、分岐点に置かれた石仏を見ることもできます。

❺ 茂原観音

お堂に安置されている観音は、秘仏となっており、公開は不定期。ここに奉納された数多くの絵馬は、江戸時代から現代に至るまで多くの参詣者と厚い信仰があったことを窺わせています。

知ってなるほど! 結城道との分岐点だった追分

宇都宮方面から北関東自動車道の高架をくぐってすぐのところに、「追分」と書いて地元で「わかさり」と呼ばれるところがあります。ここを東に入る道が、かつての結城道の跡です。現在、南に向かう辺りの道が失われていますが、ここから多功天満宮、下野薬師寺跡、竜興寺を経て結城へと道が続いていたのです。

❻ 星宮神社

鞘堂新田の鎮守として、古くから信仰を集めていた神社ですが、創建年代などは定かではありません。本殿の裏に石の祠が点在し、参道右手にも石の祠が並んでいます。

❼ 鞘堂地蔵

この辺りの地名にもなったといわれるのが、この地蔵です。鞘堂の名は、天授6（康暦2、1380）年の「小山・宇都宮合戦」の際、戦死した兵の鞘を集めて埋め、そこにお堂を建て地蔵を安置したことから付けられました。

街道名物 かんぴょうの正体は?

のり巻きの具としてお馴染みのかんぴょうですが、その正体は、夏の夕暮れに白い花を咲かせる夕顔の実なのです。ウリ科の植物で古くから栽培されていますが、この夕顔の果肉を細長くむいて乾燥させるとかんぴょうになります。食物繊維や鉄分、リン、カルシウムなどが豊富で、健康食品としても優れています。